

「高知県鉄道ネットワークあり方懇談会」運営体制

高知県懇談会設置の目的

- ◆ 鉄道利用者の増加による新たな収益を上げるための方策を確立(公共交通全般から鉄道利用増にアプローチ)
- ◆ その方策を確立するため、民間事業者同士が鉄道利用の活性化策を協議して早期に実行(県がコーディネート)

親会のメンバー等

H31.4.25に立ち上げ

- JR四国、とさでん交通、土佐くろしお鉄道
- 高知県、高知県観光コンベンション協会
- 高知市、安芸市、南国市、四万十市、大豊町、四万十町(各地域公共交通会議等のメンバー)
- 四国運輸局(オブザーバー)

※第1回会議(H31.4.25):JR四国の現状、各交通事業者の利用促進策、今後の会議の進め方を確認
 ※第2回会議(R1.10.9):ワーキンググループの意見をとりまとめ⇒R1.10.18に四国懇談会に概要を報告
 ※メンバーは適宜追加し、必要に応じて有識者や関係団体から意見を聴取



四国における鉄道ネットワークのあり方懇談会Ⅱ (R1.10.18)

各グループの意見・進捗状況を報告

路線別ワーキンググループ

JR予土線 (R1:6/10・8/27、R2:2/20)
参加者 延べ94名

JR土讃線 (R1:7/31、R2:2/14)
参加者 延べ49名

※参加者:自治体、JR四国等の交通事業者、地域住民、観光関係者、学校関係者 等
 ※メンバーは適宜追加し、必要に応じて有識者や関係団体から意見を聴取



- 高知県東部広域地域公共交通協議会
- ごめん・なはり線活性化協議会
- 高知県嶺北地域公共交通協議会
- 土佐くろしお鉄道中村・宿毛線運営協議会
- 予土線利用促進対策協議会(高知・愛媛両県)
※R1.11.3~4 予土線全線開通45周年記念イベント開催(約730名参加)
- 四国新幹線整備促進期成会
※R2.2.1シンポジウム「四国の新幹線を考えるin高知」開催(約700名参加)

スケジュール

2019年度	4月	5月~7月	8月~9月	10月	11月~12月	1月	2月
親会	4/25設置			10/9WG意見とりまとめ 10/18四国懇談会に報告			
ワーキンググループ(WG)		活性化策の協議(6/10・7/31・8/27)			担当者協議		活性化策のとりまとめ(2/14・2/20)

今後もPDCAサイクルによる活性化策の進捗管理を実施

今後も、WGで出された様々な提案について、県は行司役としてイニシアティブをとり、具現化していく

「高知県鉄道ネットワークあり方懇談会」路線別WGの検討状況

◆交通事業者等の民間事業者同士が、鉄道利用の活性化策を連携して実行に移せるよう、下記のとおり路線別WGで協議を行い、取り組みを進めている

予土線WG

【構成メンバー】

- ・ J R 四国、土佐くろしお鉄道、高知西南交通、四万十交通
- ・ 県観光コンベンション協会、四万十町観光協会、奇想天外、沿線宿泊施設等の関係者
- ・ 県立四万十高等学校
- ・ 四万十市、四万十町
- ・ 県（中山間振興・交通部、産業振興推進部、観光振興部）
- ・ 四国運輸局（オブザーバー）

【検討状況】

第1回WG R1.6.10 四万十町役場（参加者36名）

〈内容〉

- 1 これまでの利用促進策の共有
 - ・ J R 四国と高知県予土線利用促進対策協議会の取組内容を確認
- 2 グループワーク（4チームに分かれてディスカッション）
 - ・ これまでの利用促進策の検証
 - ・ 事業者が連携して取り組む予土線の活性化策の検討

第2回WG R1.8.27 四万十町役場（参加者30名）

〈内容〉

- グループワーク（3チームに分かれてディスカッション）
- ・ 第1回WGで出されたアイデアを踏まえた活性化策の検討
 - ・ 地域資源を活用した観光利用促進策の検討
 - ・ 日常利用促進策の検討

第3回WG

R2.2.20 四万十町農村環境改善センター（参加者28名）

〈内容〉

- 1 四国における鉄道NWのあり方に関する懇談会Ⅱの中間整理の確認
- 2 具体の活性化策のとりまとめ

土讃線WG

【構成メンバー】

- ・ J R 四国、土佐くろしお鉄道、とさでん交通
- ・ 県観光コンベンション協会、高知市観光協会
- ・ NPO交通まちづくり高知、高知の電車とまちを愛する会
- ・ 高知市、安芸市、南国市、いの町、大豊町
- ・ 県（中山間振興・交通部）
- ・ 四国運輸局（オブザーバー）

【検討状況】

第1回WG R1.7.31 高知共済会館（参加者28名）

〈内容〉

- 1 これまでの利用促進策の共有
 - ・ J R 四国の取組内容を確認
- 2 グループワーク（3チームに分かれてディスカッション）
 - ・ これまでの利用促進策の検証
 - ・ 事業者が連携して取り組む土讃線の活性化策の検討

第2回WG R2.2.14 文学館ホール（参加者21名）

〈内容〉

- 1 四国における鉄道NWのあり方に関する懇談会Ⅱの中間整理の確認
- 2 具体の活性化策のとりまとめ

【今後の進め方】

具体の活性化策の実行に向けた取り組みを推進



WG状況写真

令和元年度 予土線WGの取組状況

令和元年度の取り組み(3)

高知県資料

①WGで出された 主なアイデア (R1.6.10、8.27)

【地域資源を活用した観光 利用促進策】

- ・鉄道とバスの連携
- ・企画列車の運行
- ・車内放送に高校生や地域住民の声を録音
- ・ふるさと納税を活用したフリーきっぷの提供

【日常利用促進策】

- ・危機意識の見える化
(例：青森県大鰐線)
- ・沿線自治体でフレックス
タイムの導入
- ・列車内へのトイレ設置と
駅舎バリアフリー化 等

②具体的な検討状況

検討テーマ

沿線地域も参画した鉄道利用を通じた地域の活性化策案の検討

○担当者協議の実施

〈検討メンバー〉

J R四国、沿線自治体、観光協会、予土線アドバイザー、県

- ・ R1.9.20
第1回担当者協議
- ・ R1.11.29
第2回担当者協議
- ・ R2.1.24
第3回担当者協議

○愛媛県側との意見交換会

- ・ R1.12.25
意見交換会実施
(松野町で開催)

連携

③令和元年度 取組状況

具体的な活性化策

「観光利用促進策」及び「日常利用促進策」の検討結果

【観光利用促進策】

「体験や食をテーマとしたツアーのメニュー化」の考案

(高知県予土線利用促進対策協議会と連携)

- ・予土線と地域の観光資源を組み合わせたメニューを企画立案
十川こいのぼり川渡し体験ツアー企画〈春〉
※R2実施に向け準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止
※その他、季節に合わせたツアーを考案中(四万十川漁体験、
予土線3兄弟の定例化 等)

【日常利用促進策】

- 1 危機意識の見える化の実施
 - ・広報誌への掲載(四万十町広報 R1.11~R2.1掲載)
- 2 路線バス等と組み合わせた路線図づくり(R2予定)
 - ・予土線と路線バス等と組み合わせた路線図を作成
- 3 予土線などの公共交通PRの実施検討(R2予定)
 - ・沿線住民へのPR実施方法の検討(高齢者が集まる場でのPR等)

【その他】

- J R四国ポケット時刻表への路線バス時刻の掲載(J R四国)
 - ・予土線沿線の路線バス(四万十交通)の時刻を掲載(R2.3)
- フレックスタイム制度の導入(四万十町)
 - ・予土線を利用して通勤ができる制度を創設(R1.6~)
- ダイヤ改正情報の事前共有(J R四国)
 - ・交通事業者や自治体等にダイヤ改正後の時刻を事前に周知(R2.1)

その他関連した取り組み

【高知県予土線利用促進対策協議会】

〈概要〉沿線住民の意思を反映した予土線の運行存続のための利用促進を図り、もって産業・経済・教育・文化等地域の発展を図ることを目的とする

〈取組〉ホームページ情報発信、地域住民への利用助成、イベント開催、トロッコガイドへの助成 等

【JR四国と自治体等の連携による活性化策の実績】

- 鉄道ホビートレイン、海洋堂ホビートレイン、しまんトロッコの運行
 - ・予土線3兄弟イベント、スタンプラリー 等
- 予土線サイクル混乗試験(サイクルトレイン)
- 各交通事業者と連携した企画きっぷの発売
 - ・四国西南周遊レール&バスきっぷ、四万十・宇和海フリーきっぷ
 - ・駅から観タクン(海洋堂ホビー館と四万十川コース)

④令和2年度 取組予定

WG及び担当者協議を実施

(新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、PDCAによる進捗管理)

- 上記③の活性化策の実行に向けた協議を継続
 - ・体験や食をテーマとした、季節に合わせたツアー
 - ・路線図づくり、沿線住民へのPR
- WGで出された活性化策(案)(資料(5))を基に、新たな活性化策を具現化
- 高知県予土線利用促進対策協議会及び愛媛県予土線利用促進対策協議会との連携(よどせんとりてつマップの改定等)
- その他公共交通関連の協議会等との連携

令和元年度 土讃線WGの取組状況

令和元年度の取り組み(4)

高知県資料

①WGで出された 主なアイデア (R1.7.31)

【利便性向上策】

- 交通事業者間での連携
 - ・ダイヤ面（接続を合わせる等）
 - ・運賃面（共通乗車券等）
 - ・乗継案内（駅構内でのバス・電車案内等）
 - ・設備面（鉄道とバスの連携強化等）

【利用促進策】

- ・運賃面
- ・観光関係
- ・広報展開 等

②具体的な検討状況

検討テーマ

高知駅周辺での利便性向上策・利用促進策案の検討

○担当者協議の実施

〈検討メンバー〉
JR四国、土佐くろしお鉄道、とさでん交通、高知市、県

- ・R1.12.6
第1回担当者協議実施

連携

その他関連した取り組み

【JR四国と自治体等の連携による活性化策の実績】

- 駅を中心としたまちづくり（高知駅、窪川駅）
 - ・高知駅：路面電車乗り入れ、駅前広場整備
 - ・窪川駅：駅隣接地に役場を整備、東西庁舎を自由通路で結ぶ
- 西佐川駅、斗賀野駅の駅舎を自治体へ譲渡し、自治体が活用
- 新駅の設置（小村神社前駅）
- ホームと車両の段差の改善（大田口駅、土佐穴内駅、角茂谷駅、新改駅）
- 1000型気動車トイレ設置
- 各交通事業者と連携した企画きっぷの発売
 - 〔本州方面〕
 - ・阪神往復フリーきっぷ（土佐くろしお鉄道等）
 - ・岡山自由席トク割回数券、岡山指定席トク割きっぷ（JR西日本） 等
 - 〔四国内〕
 - ・高知日帰り路面電車割引きっぷ（とさでん交通）
 - ・くろしおSきっぷ（土佐くろしお鉄道）
 - ・パースデイきっぷ（土佐くろしお鉄道、阿佐海岸鉄道）
 - ・ALL SHIKOKU Rail Pass（土佐くろしお鉄道、阿佐海岸鉄道、とさでん交通等） 等

③令和元年度 取組状況

具体的な活性化策

「高知駅周辺での利便性向上策・利用促進策」の検討結果
※まずは沿線人口が多いエリアを中心に検討

【利便性向上策・利用促進策】

◆来年度以降の導入に向けた検討を行うもの

- 1 交通事業者間のダイヤ面での連携
 - (1) 都市圏へのパターンダイヤ導入の検討
 - ・土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線との連携も検討
 - (2) 大杉駅の接続向上の検討
 - ・交通結節点の大杉駅の接続改善・強化について検討（高知県嶺北地域公共交通協議会）
- 2 交通事業者間の運賃面での連携の検討
 - ・高知～奈半利間のフリーきっぷによる利便性向上を検討

◆導入が実現したもの

- 3 交通事業者間の乗継案内等での連携
 - ・JR特急列車が高知駅到着（岡山等からの下り線）時に、車内で路面電車の案内放送を実施(R2.3～)

【その他】

- ダイヤ改正情報の事前共有（JR四国(R2.1)）
 - ・交通事業者や自治体等にダイヤ改正後の時刻を事前に周知
- 後免駅のバリアフリー化（JR四国、土佐くろしお鉄道、県、市町村(R2予定)）
 - ・内方線付き点状ブロック等の整備
- 新型特急車両の導入（JR四国(R1.9～)、土佐くろしお鉄道(R2.8～)）
- 観光列車の導入（高知～窪川駅間）（JR四国(R2.7～)）
 - ・観光列車(志国土佐 時代の夜明けのものがたり)を活用した利用促進
- 高知駅前に宿泊特化型ホテル「JRクレメントイン高知」計画（JR四国(R2.11開業予定)）
- 安和駅敷地内に「集落活動センター」整備（須崎市(R2整備予定)）

④令和2年度 取組予定

WG及び担当者協議を実施

（新型コロナの影響を考慮しながら、PDCAによる進捗管理）

- 上記③の活性化策の実行に向けた協議を継続
 - ・パターンダイヤの導入
 - ・高知～奈半利間のフリーきっぷの導入
- WGで出された活性化策(案)(資料(5))を基に、新たな活性化策を具現化
- 公共交通関連の協議会等との連携

予土線の活性化策(案)

	【地域資源を活用した観光利用促進策】	【日常利用促進策】
1	車内放送は高校生や住民の声を録音	列車内のトイレ設置と駅舎バリアフリー化
2	企画列車の増強	沿線住民へのアンケート実施
3	海洋堂ホビー館との連携(駅ホームや車両内にフィギュア設置、スタンプラリー等)	ICカードの導入
4	鉄道とバスの連携(共通きっぷ、時刻表の集約等)	危機意識の見える化
5	駅からバス以外の移動手段の確立(サイクルトレイン、レンタサイクル、タクシ-の活用)	免許返納制度の創設
6	ふるさと納税を活用したフリーきっぷの提供	沿線自治体でフレックスタイムの導入
7	各種企画列車の運行(大臼ツツア、地酒・地元食、スイーツ、皿鉢、十和バ、バ、ガ、カ、ボ、ン等)	
8	その他 (1)観光案内や周辺マップの充実 (2)拠点駅での観光メニュー化 (3)予土線3兄弟の土佐くろしお鉄道乗り入れ (4)パターンダイヤ化 (5)鉄橋を歩くツアー	

土讃線の活性化策(案)

	【利便性向上策】	【利用促進策】
1	【交通事業者間のダイヤ面での連携】 (1)ダイヤ調整 (接続駅で鉄道・バス・電車の時刻を極力合わせる) (2)パターンダイヤの導入	【運賃等】 (1)全体 ・昼間限定の割引回数券(駐車料金(高知市内500円)と往復料金が同等か、それ以下の割引設定) ・毎月1日限定で県内が700円で乗り放題 ・レギュラーに利用ポイント付与(他社カードポイントとの交換等) (2)通勤・通学 ◎サービス向上 ・通学定期券の分割購入制度(一括購入は高価) ・定期券利用の割引率アップ ・通学定期の発行基準の見直し (現状は自宅の最寄り駅からしか購入できない) ◎行政支援 ・通勤・通学定期への財政支援 ・高齢者(特に運転免許返納者)への財政支援 (高知市の「よさこいいきいきフリーパス」が、公共交通の活性化や外出支援に繋がっている)
2	【交通事業者間の運賃面での連携】 (1)鉄道・バス・電車の乗継割引、タツとの乗継割引 (2)空港リムジンバス・MY遊バスとの共通乗車券の発行 (3)鉄道・バス・タツの合同定期の発行 (4)ゾーン内均一運賃(他社含む)によるフリー乗車券の発行 (5)鉄道・バス・電車の共通定期の発行	(3)高齢者 ・運転免許返納者への格安サービス(回数券の発行等) ・高齢者への割引施策 ・高齢者向けツアーの企画販売(日帰りで鉄道⇄バス)
3	【交通事業者間の乗継案内等での連携】 (1)駅構内でのバス・電車の案内 (2)鉄道・バス乗継が1枚でわかる広報展開(同一時刻表)	【観光関係】 (1)自転車を活用した観光振興(サイクルトレイン等) (2)車窓がきれいな箇所(レアポイント)のPR (3)インスタ映えするPR (4)物語駅 (各駅に1話のQRコードがあり、数駅を周遊すれば物語が完結 ※季節ごとに物語を変える仕組み)
4	【交通事業者間の設備面での連携】 (1)Ma a Sアプリの導入 (2)鉄道・バス等で共通利用できるICカードの導入 (都市型ICカード導入の意見もあり) (3)バス待機場所の整備(駅での鉄道とバスの連携強化)	【広報展開】 (1)自治体広報誌等への時刻表の掲載 (2)鉄道・バス乗継が1枚でわかる広報展開(同一時刻表) (3)施設や観光地への公共交通アクセスパンフの作成 (4)公共交通を利用していない方へのPR強化 (5)駅・電停・バス停以外(イカや自治体庁舎等)でのPR強化 (6)企画切符のPR強化 (高知から高松・徳島等への割引乗車券が一般利用者に知られていない)
5	【設備等の充実・拡大】 (1)高知駅でのP & R拡大(高架下の有効利用) (2)車椅子の固定スペースの設置 (3)Wi-Fiの設置(駅構内・車両内) (4)車両内でのスマホ充電環境の整備 (5)接続駅の待合環境の整備(加エ・電源・冷暖房等)	
6	【その他】 (1)駅周辺の商業施設等と連携した移動手段の確立(高知駅から伊予や御園地(とさのさと・蔦屋書店)までのヤマトバス運行) (2)トクトク切符の域外購入制度の導入(関東方面に行くお得な切符は多度津駅からしか購入できない) (3)カーシェアリングとの連携事業の拡大(高知駅等) (4)自治体による駅の有効活用(観光案内所の設置等)	【その他】 (1)高齢者を対象とした利用実態調査(目的地・手段・経路) (2)高知駅東側の土地の有効活用(直販所の開設等) (3)駅での地域主体のイベントの開催 (4)企業や官公庁でフレックスタイムの導入